

### 3) 影響範囲 50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況

#### (1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.3-25 に示した。

表 6.1.3-25 調査期間一覧(平成 30 年度)

地区/季節	春季	夏季	秋季	冬季
G 地区	平成 30 年 6 月 4、5、11 日	平成 30 年 9 月 26～28 日	平成 30 年 11 月 3、6、7 日	平成 31 年 1 月 17～19 日
H 地区	平成 30 年 6 月 6、7、12 日	平成 30 年 9 月 19～21 日	平成 30 年 10 月 31～11 月 1 日	平成 31 年 1 月 23、24 日
N-1 地区	平成 30 年 5 月 17、18、30、31 日	平成 30 年 9 月 7、8、11、12、14 日	平成 30 年 10 月 17、18、23～27 日	平成 31 年 2 月 4～8、12 日
N-4 地区	平成 30 年 4 月 23～26 日、5 月 9、10 日	平成 30 年 7 月 17～19、23、25～27、31 日	-	-

注)N-4 地区については夏季で調査を終了した。

#### (2) 調査方法

貴重な植物種の生育・分布状況は、影響範囲 50m 内を踏査し、貴重な植物種の生育・分布状況を把握した。また、植生断面図を作成するため、各測線上で植生調査を実施した。植生調査は、植物社会学的調査法に基づき実施した。なお、貴重な植物種のカテゴリは表 6.1.3-26 に示すとおりであり、個別の表については省略した。

表 6.1.3-26 貴重な植物種のカテゴリ

環境省 RL：「環境省レッドリスト 2019【植物等（維管束植物・蘚苔類）】」（2019）環境省	
CR+EN：絶滅危惧 I 類	絶滅の危機に瀕している種
CR：絶滅危惧 IA 類	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
EN：絶滅危惧 IB 類	IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
VU：絶滅危惧 II 類	絶滅の危険が増大している種
NT：準絶滅危惧	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
沖縄県 RDB：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版(菌類編・植物編) - レッドデータおきなわ-」（2018）沖縄県	
CR：絶滅危惧 IA 類	沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN：絶滅危惧 IB 類	沖縄県では IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
VU：絶滅危惧 II 類	沖縄県では絶滅の危機が増大している種
NT：準絶滅危惧	沖縄県では存続基盤が脆弱な種

### (3) 調査地点

調査地点は、図 6.1.3-28～図 6.1.3-31 に示す G、H、N-1(a)、N-1(b)、N-4.1、N-4.2 の無障害物帯縁辺から 50m の範囲とした。また、植生断面図は東西南北方向に設定した。

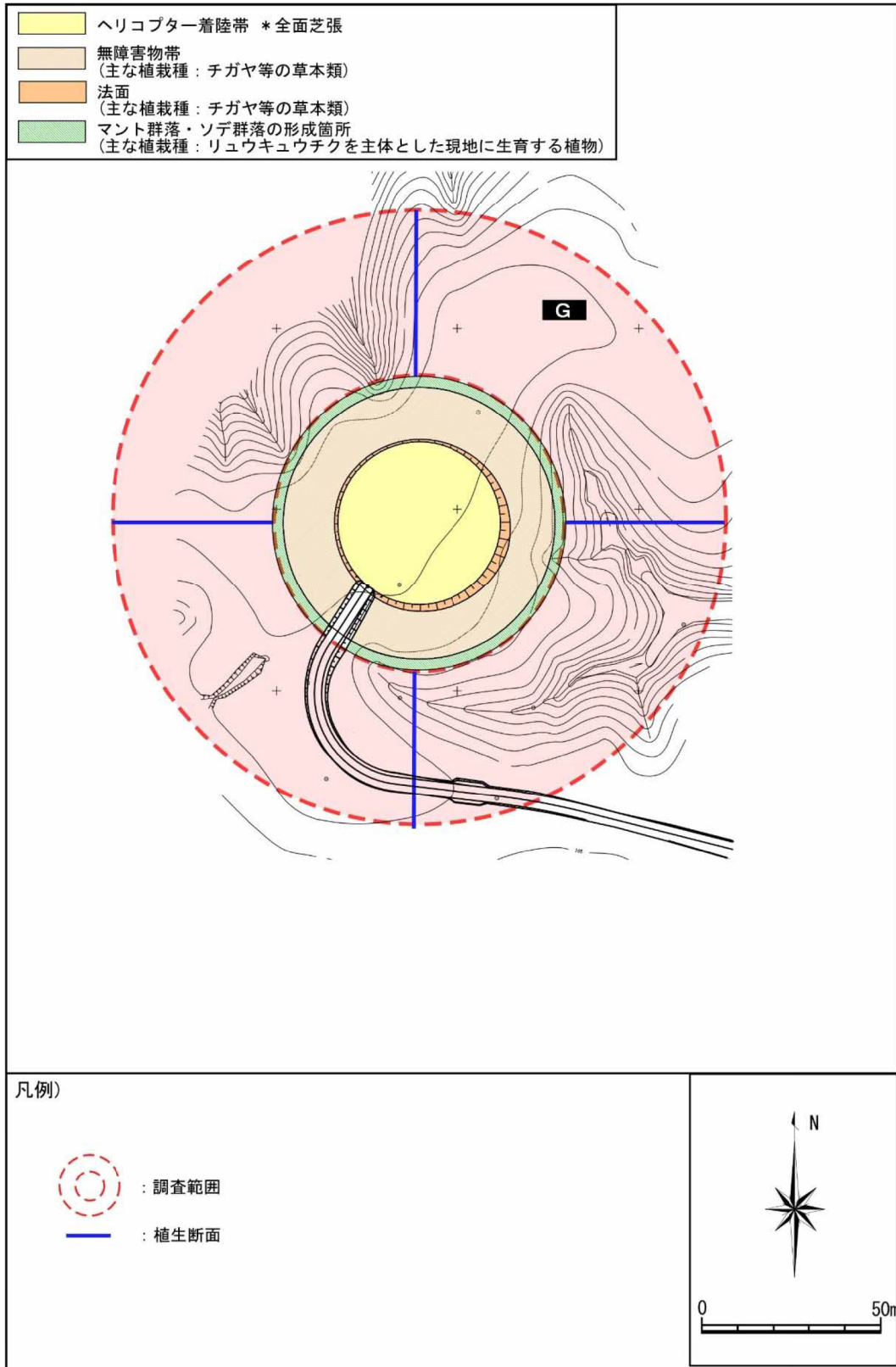


図 6.1.3-28 影響範囲 50m 内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況調査範囲 (G)

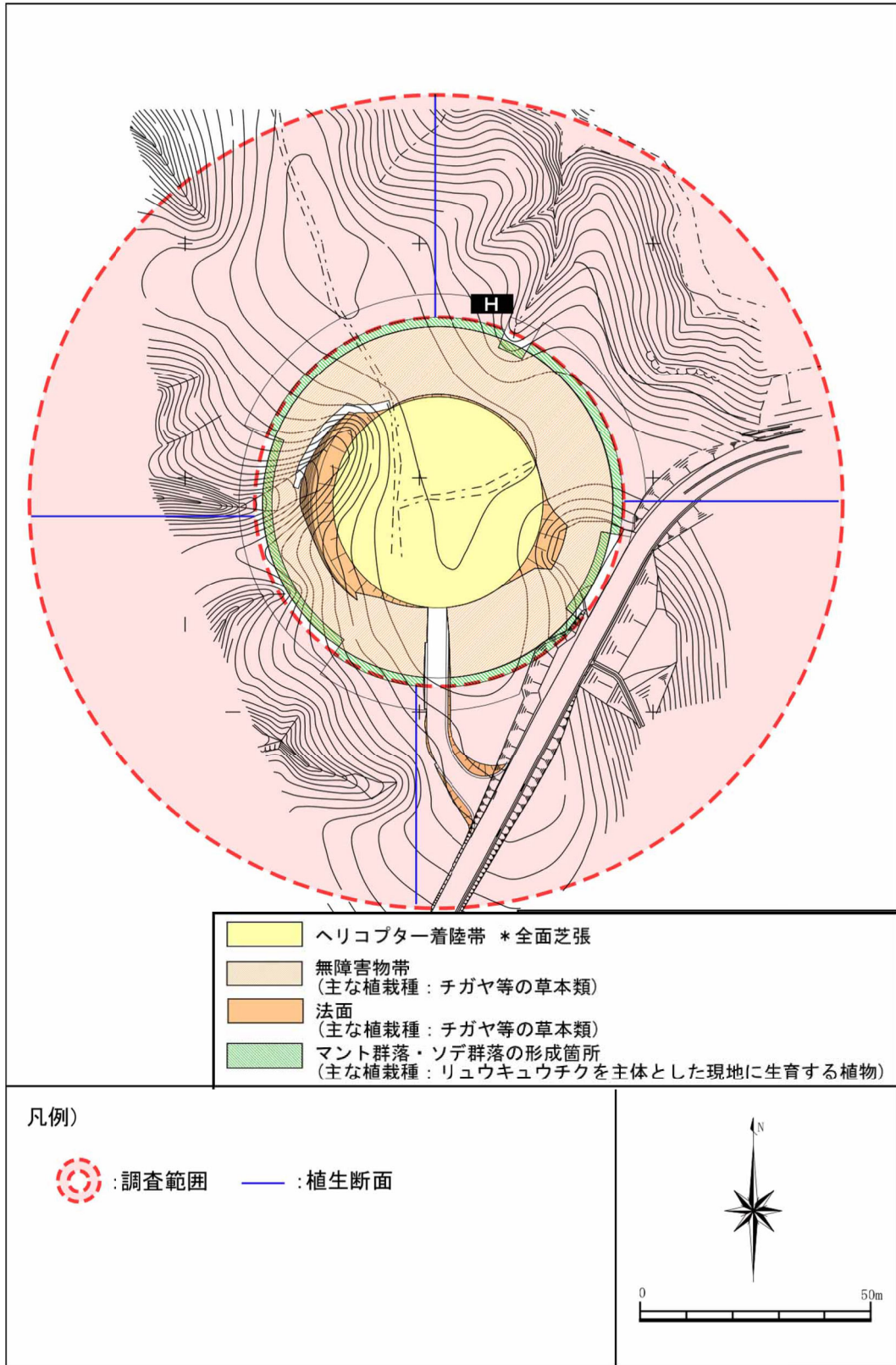


図 6.1.3-29 影響範囲 50m 内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況調査範囲 (H)



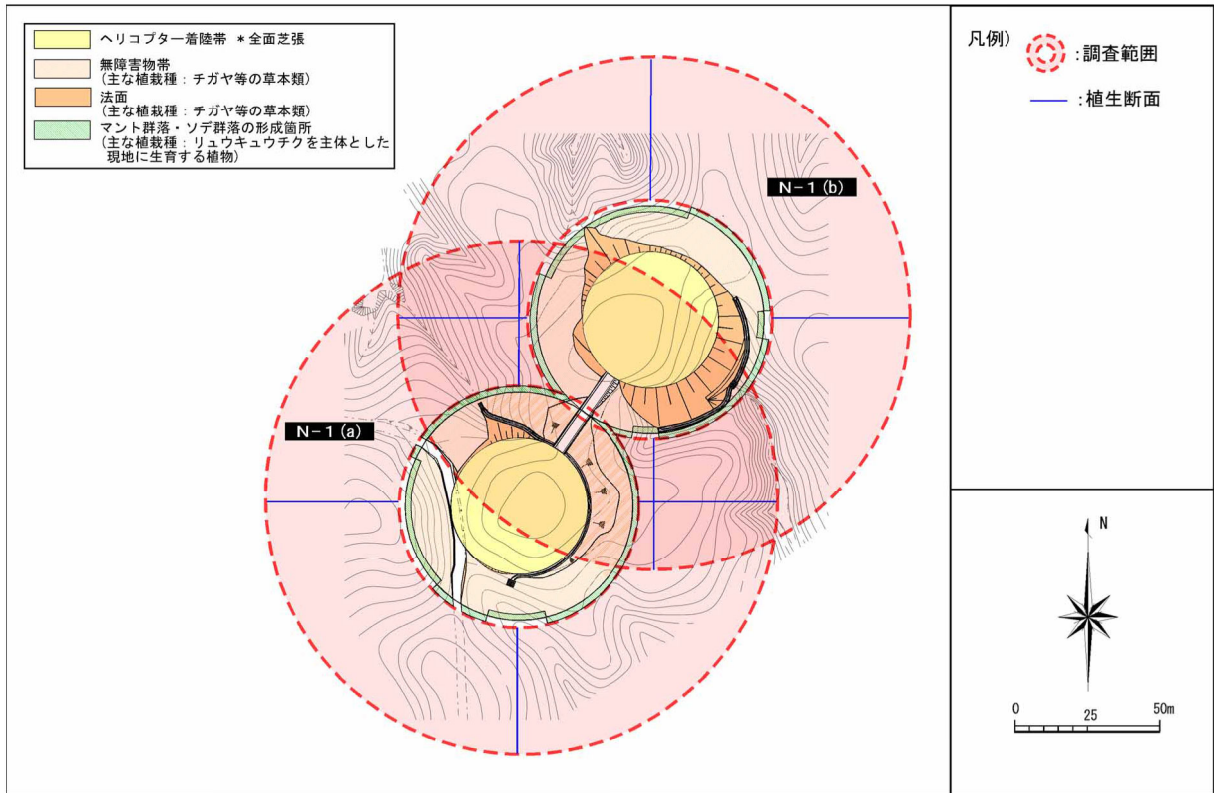


図 6.1.3-30 影響範囲 50m 内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況調査範囲 (N-1(a)、N-1(b))

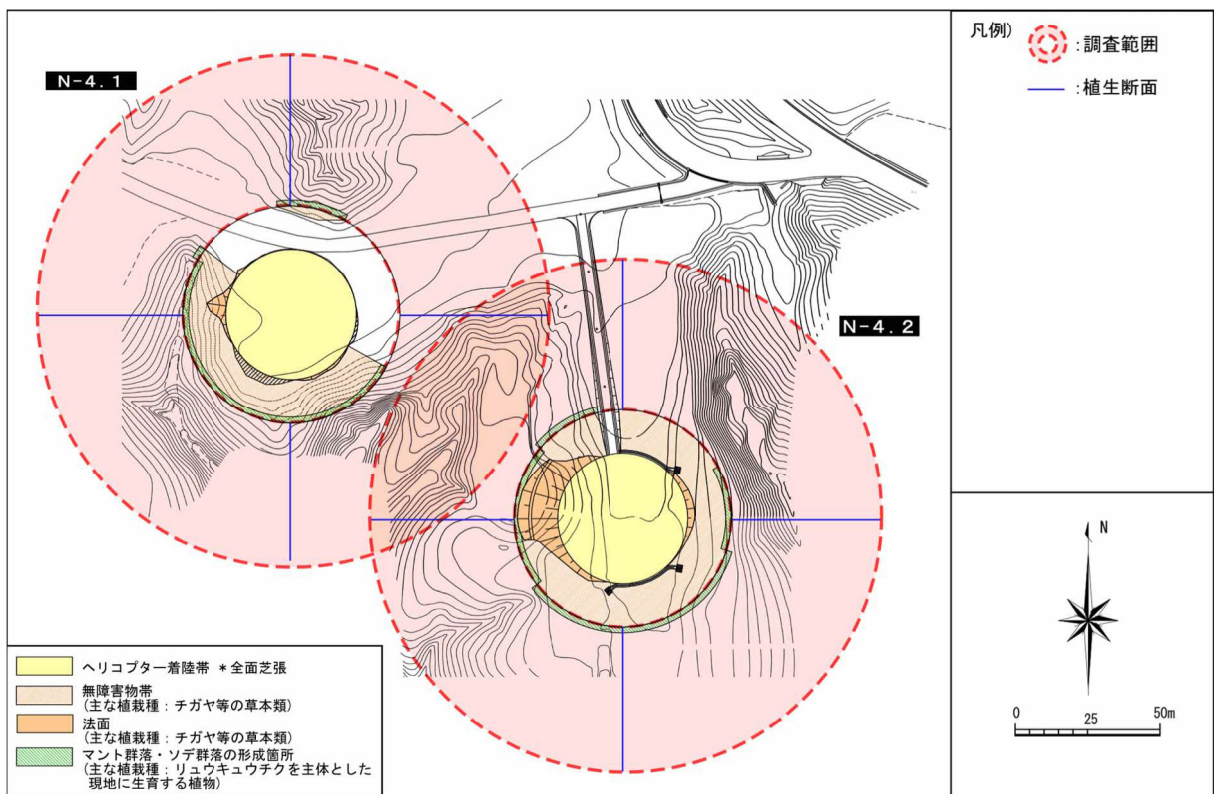


図 6.1.3-31 影響範囲 50m 貴重な植物種及び植生の生育分布状況の調査地点 (N-4 地区)

#### (4) 調査結果

影響範囲 50m 内で確認された貴重な維管束植物の写真を図 6.1.3-32 に、貴重な蘚苔類の写真を図 6.1.3-33 に示した。



図 6.1.3-32(1) 影響範囲 50m 内で確認された貴重な維管束植物 (全区域)

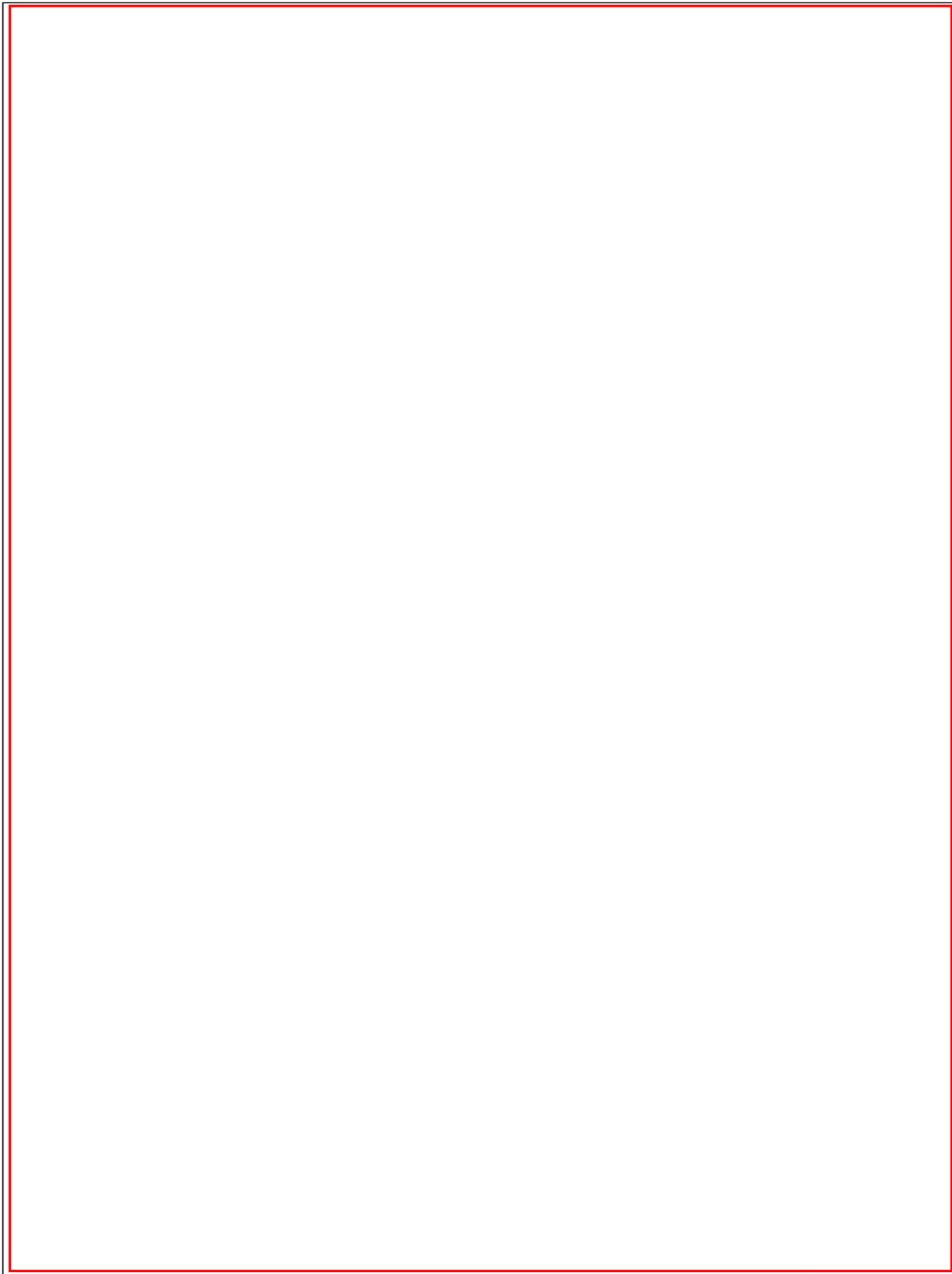


図 6.1.3-32(2) 影響範囲 50m 内で確認された貴重な維管束植物（全区域）



図 6.1.3-32(3) 影響範囲 50m 内で確認された貴重な維管束植物（全区域）



図 6.1.3-33 影響範囲 50m 内で確認された貴重な蘚苔類（全区域）

a) G 地区

(a) 維管束植物

影響範囲 50m 内で確認された貴重な維管束植物の一覧表を表 6.1.3-27 に、確認位置を図 6.1.3-34 に示した。

最終調査時で確認された貴重種は、11 種 167 地点、338 株であった。

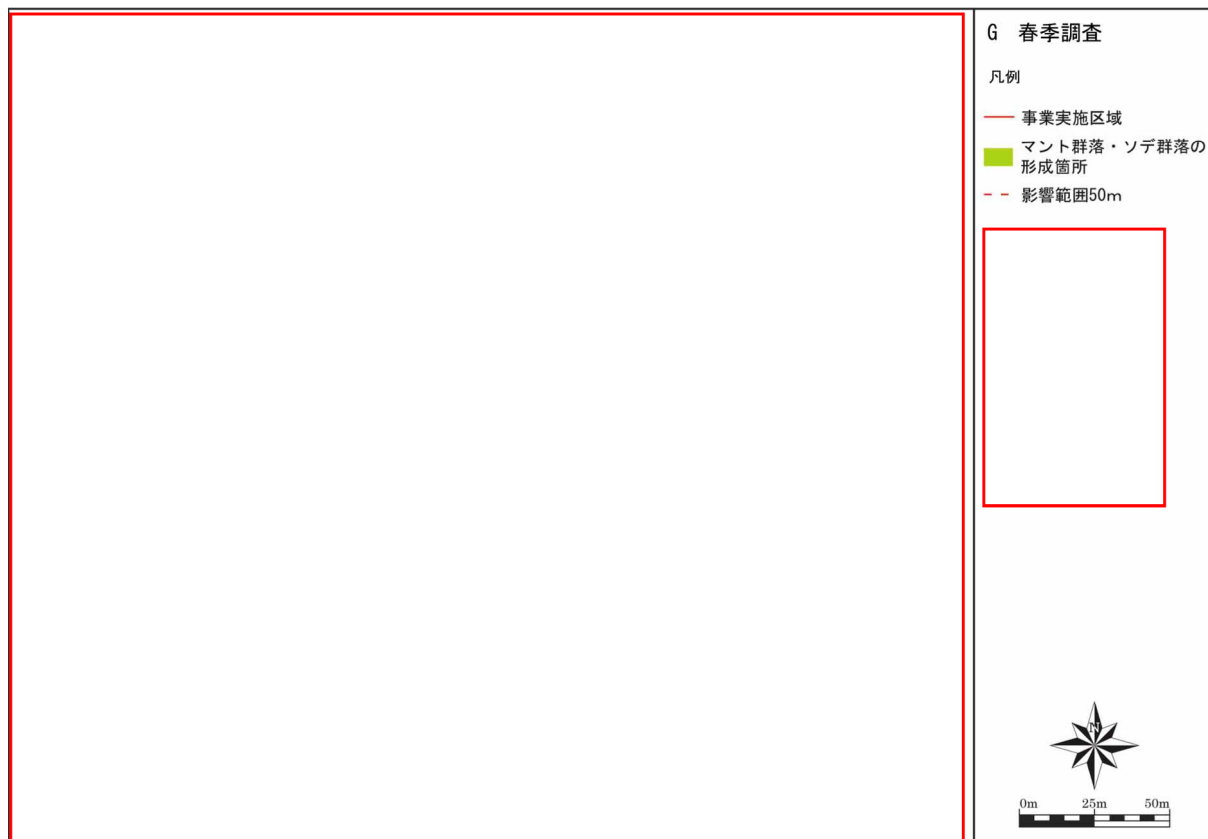
主な生育地は、、、、、、、、、、、の全 11 種とも林内であった。

表 6.1.3-27 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(G)

No.	科名	種名	学名	H30年度								貴重種 <sup>注)</sup>		主な生育地	
				存在・供用時											
				春季		夏季		秋季		冬季		環境省 RL	沖縄県 RDB		
				H30年 6月	H30年 9月	H30年 11月	H31年 1月	地点数	株数	地点数	株数				
1	<input type="text"/>			1	1	1	1	1	1	1	1	1	NT		林内
2				15	75	15	78	15	77	15	79	VU		林内	
3				6	6	6	6	6	6	6	6	VU		林内	
4				4	13	4	13	4	13	4	13	VU	VU	林内	
5				2	2	2	2	2	2	2	2	VU		林内	
6				69	73	70	76	70	77	72	80	EN	VU	林内	
7				33	47	34	49	33	46	34	50	VU	VU	林内	
8				22	74	25	88	25	85	25	87	NT		林内	
9				1	2	1	2			2	3	VU	EN	林内	
10						3	7	3	6	5	16	EN	VU	林内	
11						1	3	1	1	1	1	NT		林内	
計	8科	11種		153	293	162	325	160	314	167	338	11	5	-	

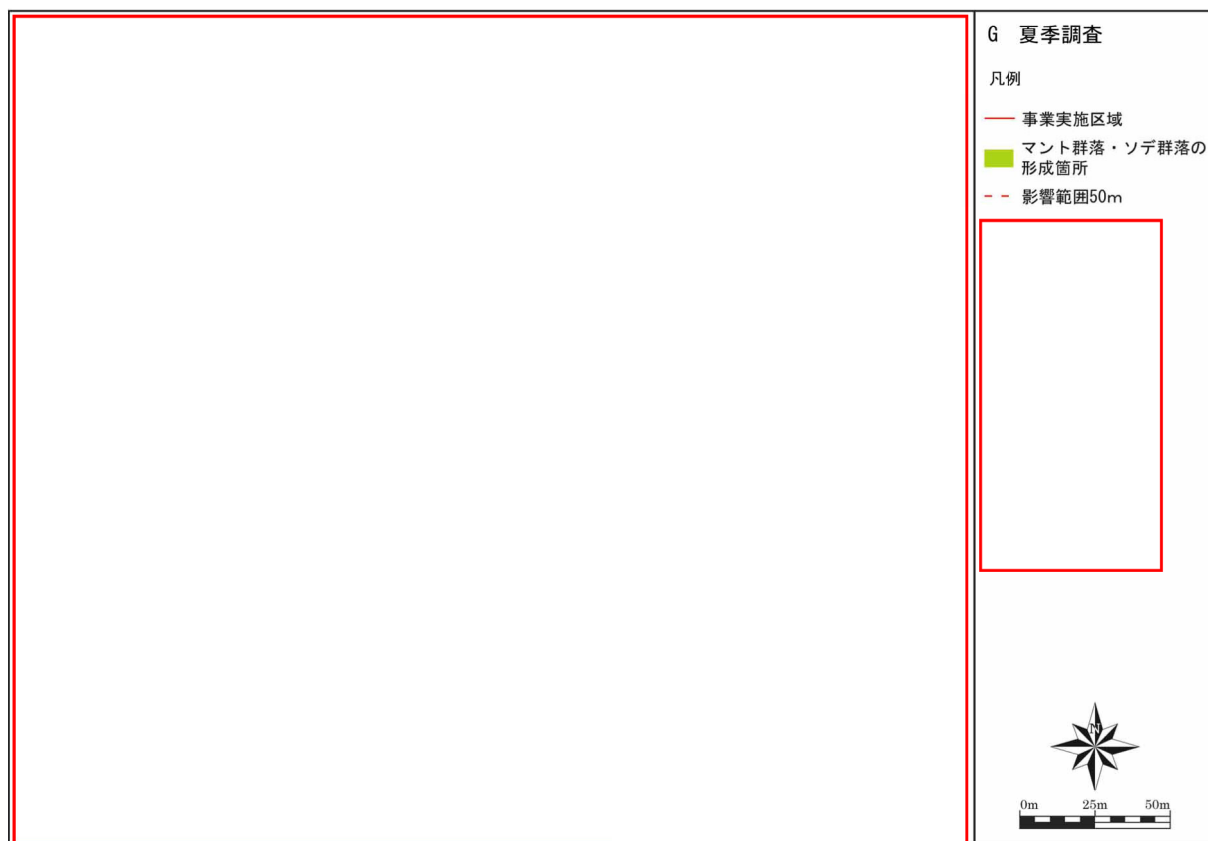
注) 貴重種のカテゴリについては、表 6.1.3-26 を参照。





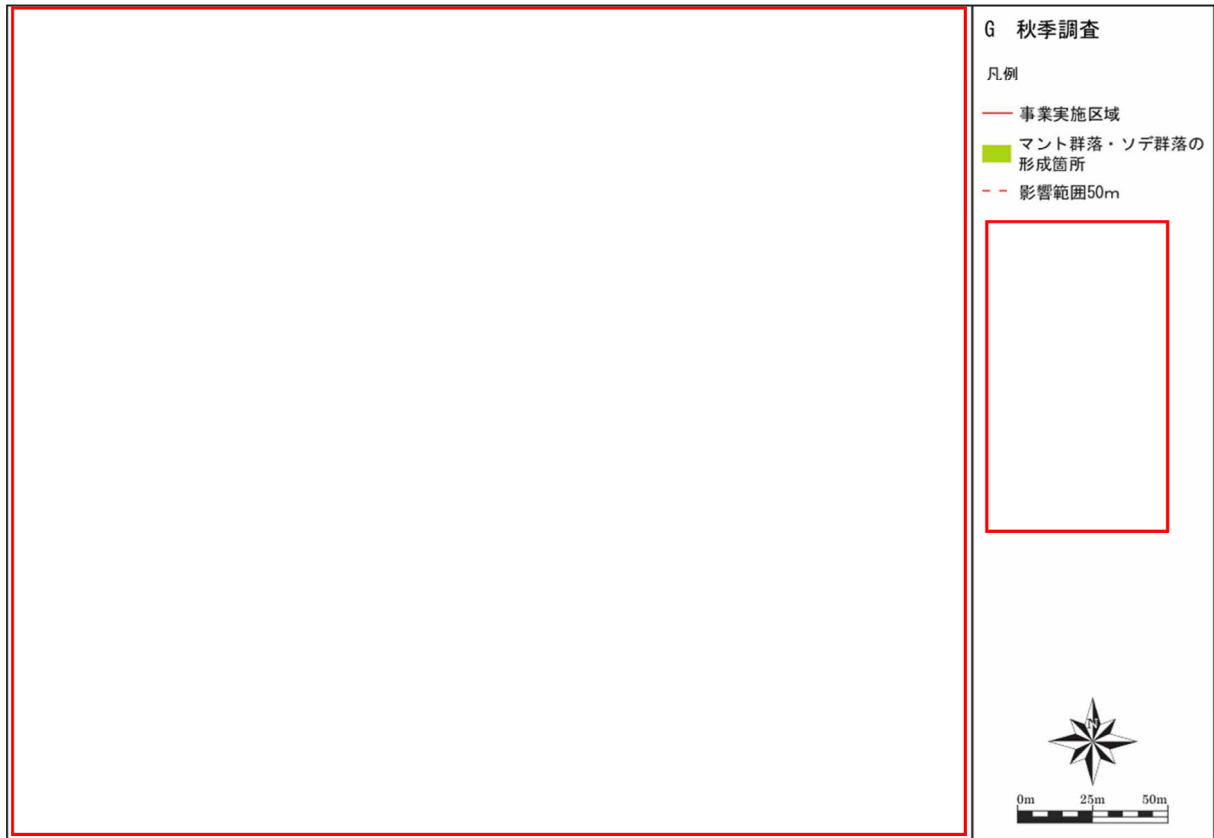
注) 図中の数字は株数を示し、1 株の表記は省略した。

図 6.1.3-34(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(G)平成 30 年度春季



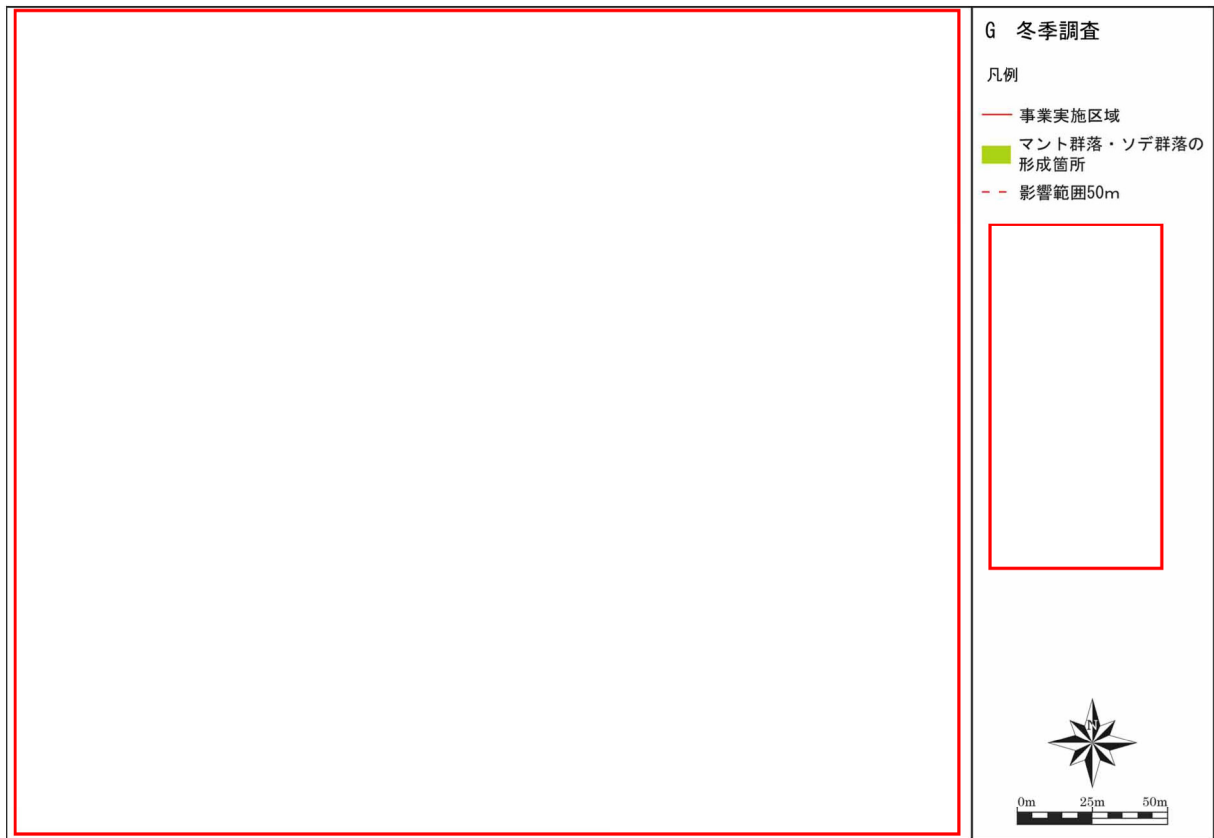
注) 図中の数字は株数を示し、1 株の表記は省略した。

図 6.1.3-34(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(G)平成 30 年度夏季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-34(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(G) 平成 30 年度秋季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-34(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(G) 平成 30 年度冬季

(b) 蘚苔類

影響範囲 50m 内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表 6.1.3-28 に、確認位置を図 6.1.3-35 に示した。

最終調査時で確認された貴重な蘚苔類は 1 科 1 種 3 地点であった。

主な生育地は、が林内の湿った岩上に生育していた。

表 6.1.3-28 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(G)

No.	科名	種名	学名	H30年度				貴重種 <sup>注)</sup>		主な生育地
				存在・供用時				環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季	夏季	秋季	冬季			
				H30年 6月	H30年 9月	H30年 11月	H31年 1月			
1				3	3	3	3	NT		湿った林内の腐木・岩・土上
計	1科	1種		3	3	3	3	1	0	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.1.3-26 を参照。

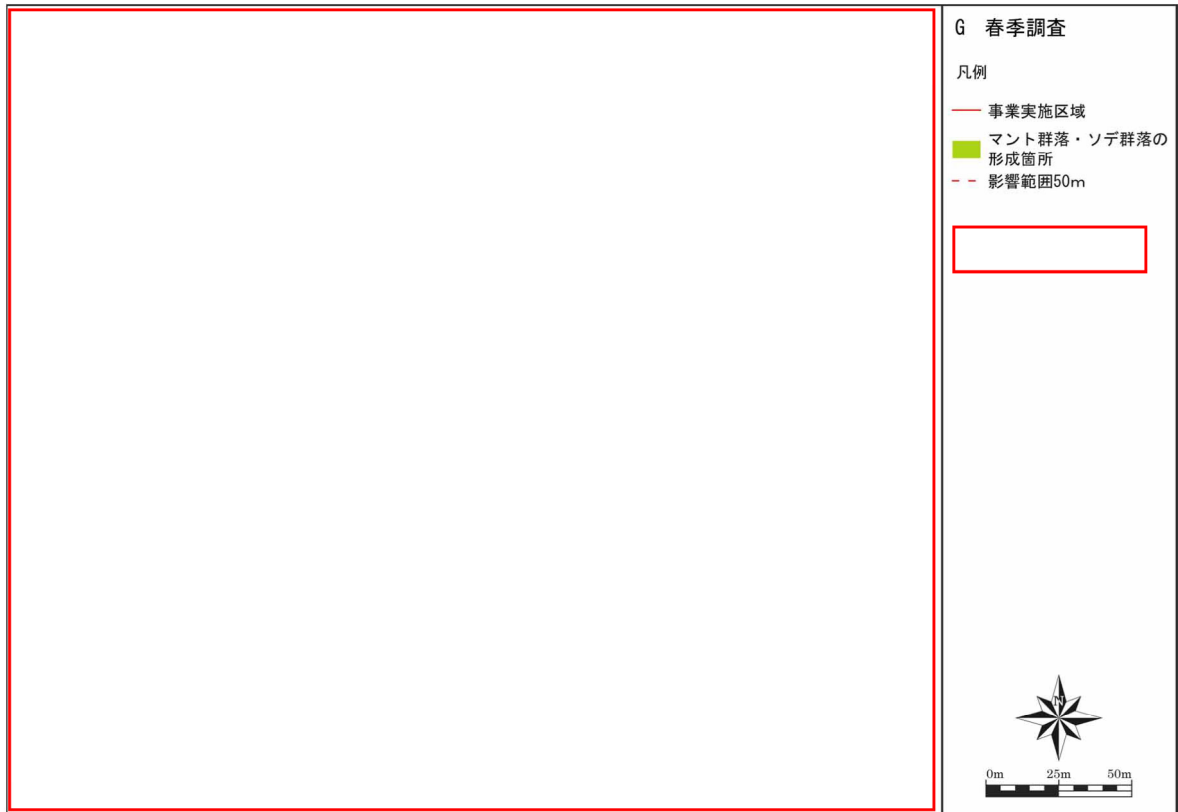


図 6.1.3-35(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(G)平成 30 年度春季

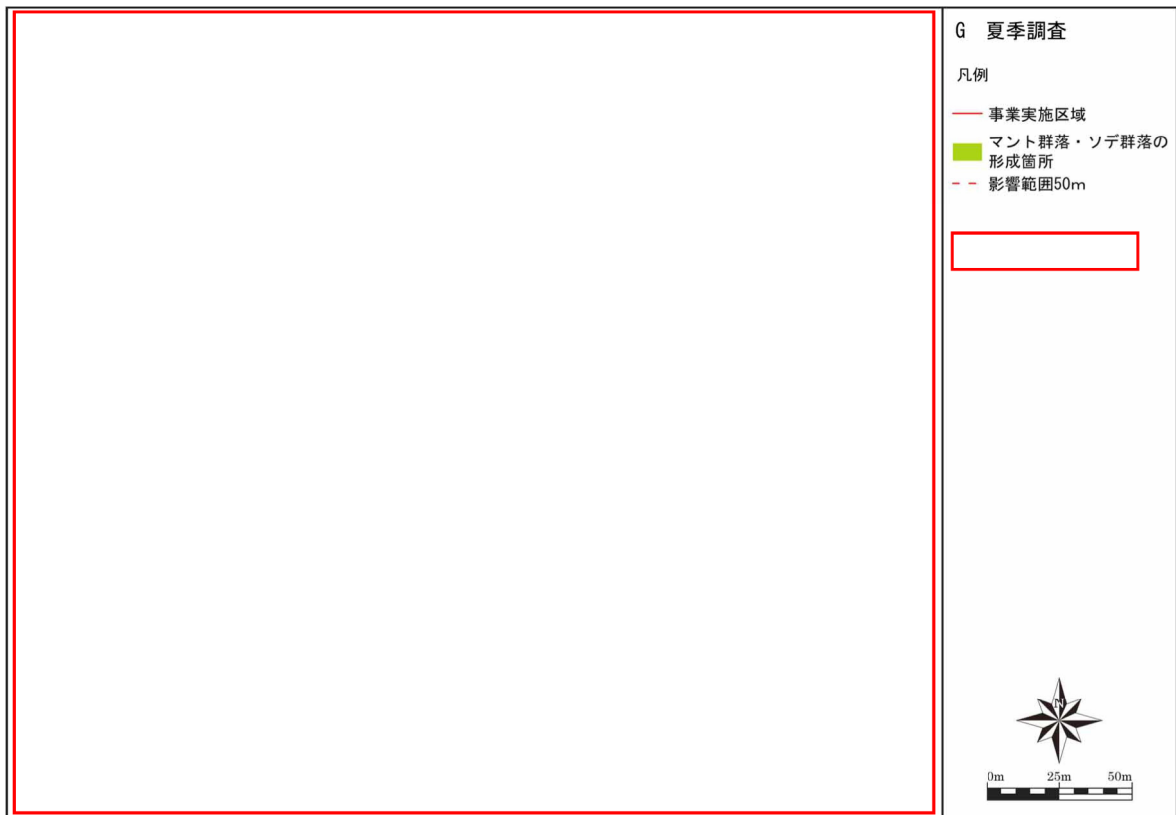


図 6.1.3-35(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(G)平成 30 年度夏季

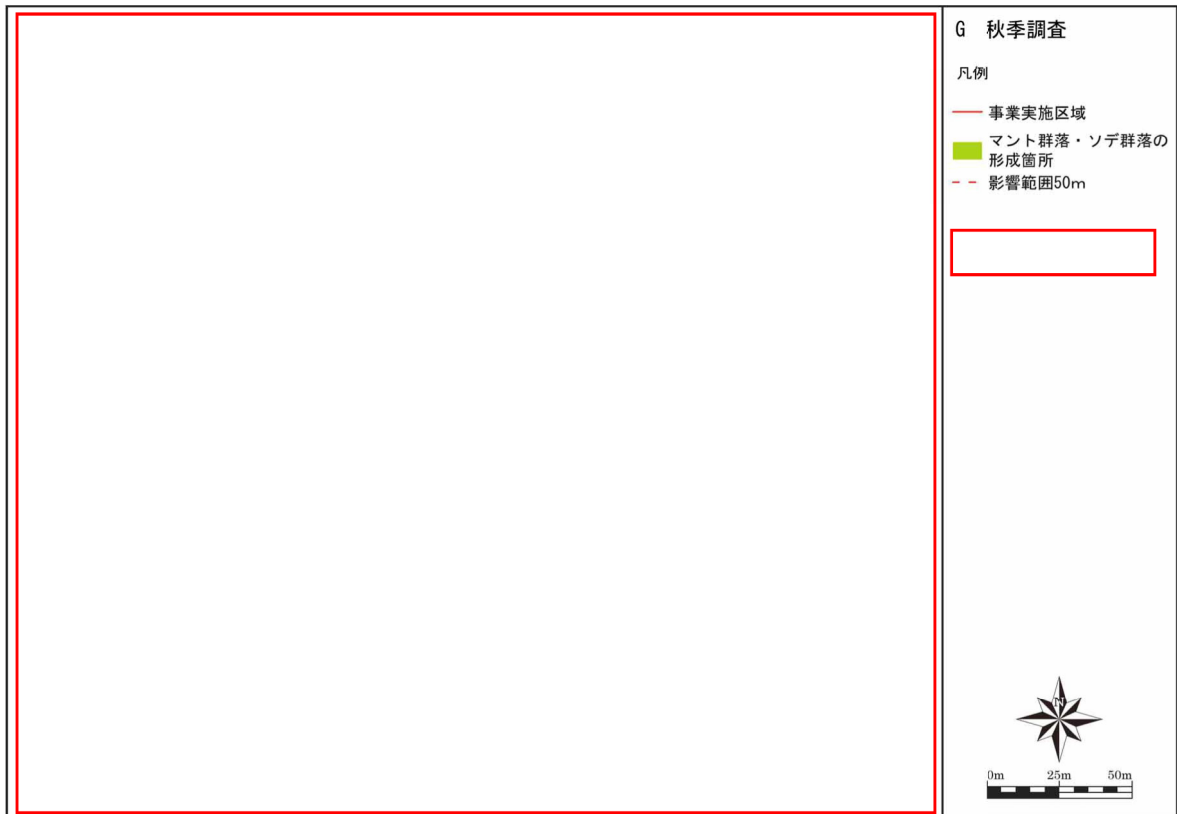


図 6.1.3-35(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(G)平成 30 年度秋季

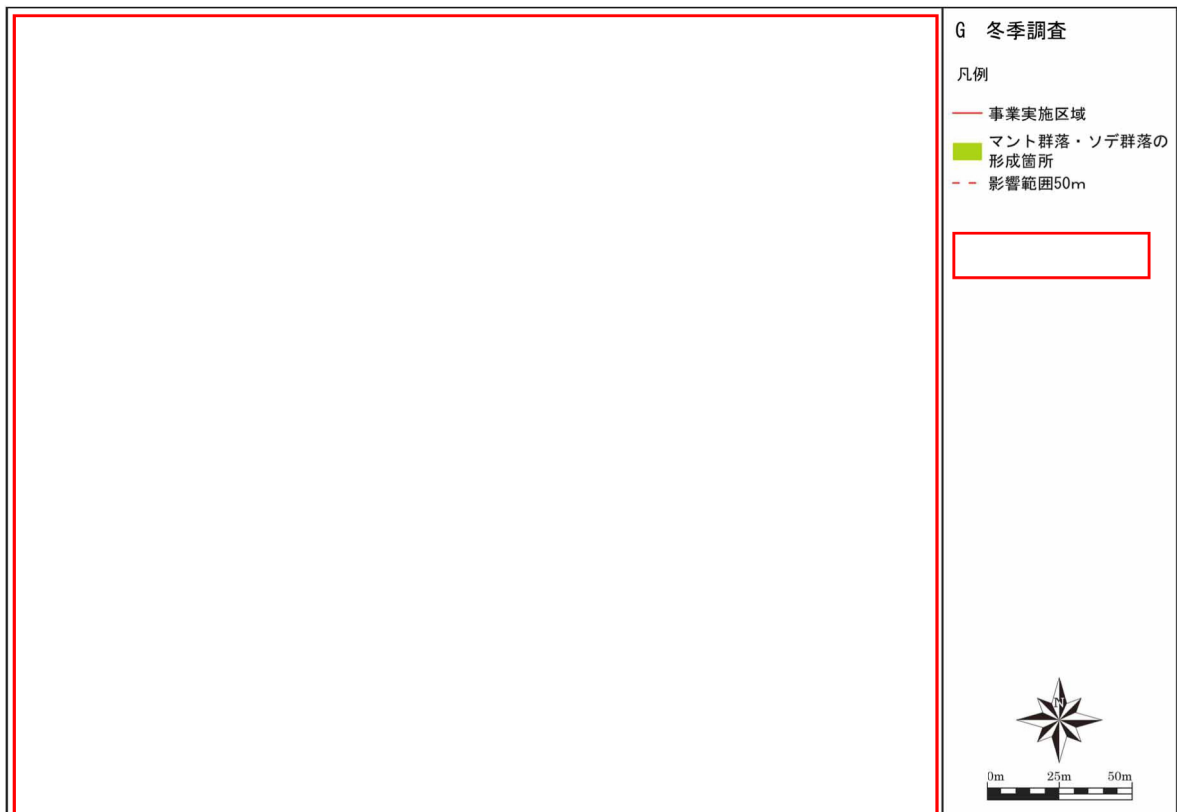


図 6.1.3-35(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(G)平成 30 年度冬季



### (c) 植生断面図

平成 30 年度の最終調査における G 植生断面模式図の南北方向を図 6.1.3-36 に、東西方向を図 6.1.3-37 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

G は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林環境が広がっている。

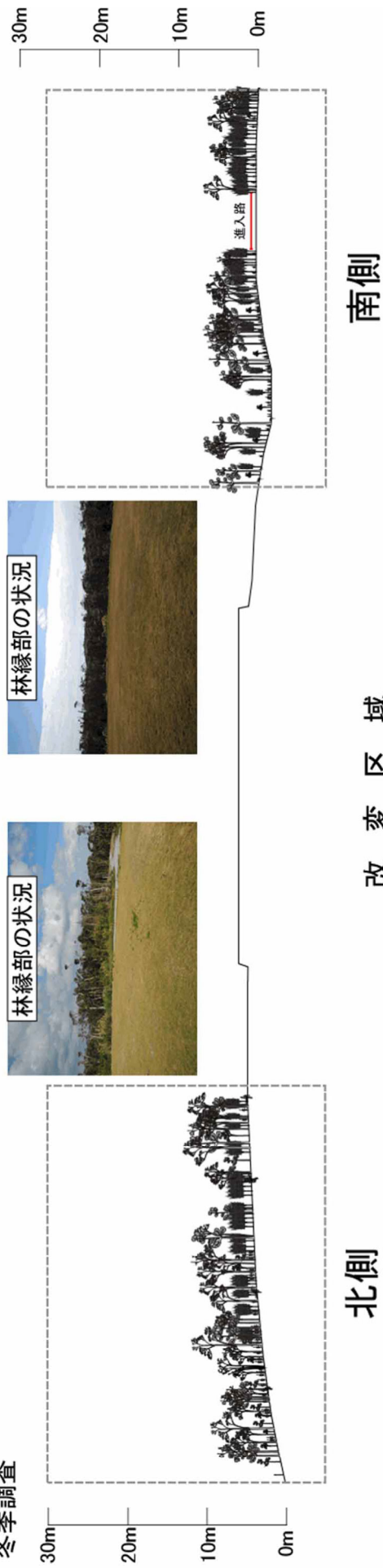
北側は、緩傾斜地でスダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-イスノキ群落、スダジイ群落の森林環境となっている。

南側は、平坦地で林縁部からスダジイ-リュウキュウチク群落が続いており、着陸帯中心から約 65~70m 付近に G 着陸帯への進入路が存在する。

東側は、着陸帯中心から約 50m 付近に谷部があり、それ以降は再び尾根部となっており、スダジイ-イスノキ群落、スダジイ-リュウキュウチク群落と続いている。

西側は、着陸帯中心から約 70m 付近までは平坦地でスダジイ-リュウキュウチク群落、ヒメユズリハ-リュウキュウチク群落となっており、それ以降は傾斜地でスダジイ-リュウキュウチク群落となっている。

G 冬季調査



北側

改変区域

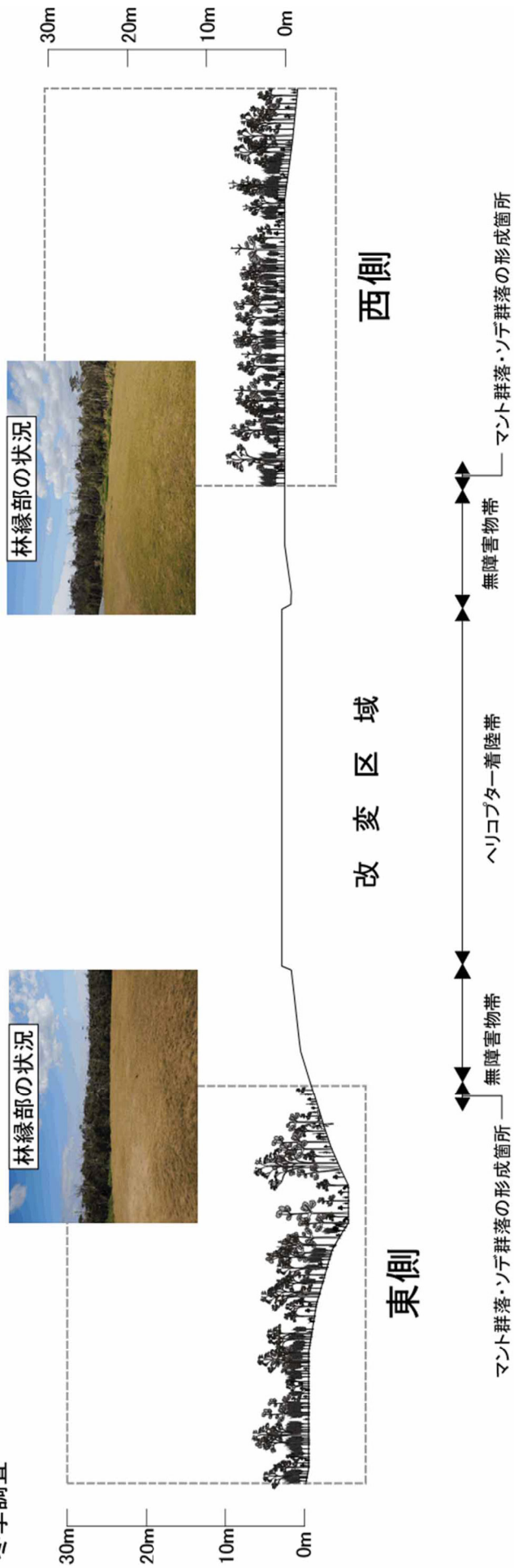
南側



植生状況	7.8m 5.1m	6.5m 4.9m	6.9m 5.5m	7.8m 3.5m	7.9m 4.7m	7.9m 5.7m	7.8m 5.3m	6.7m 3.8m	5.9m 3.4m	
樹高 (m)	21.0cm 5.3cm	20.7cm 5.4cm	19.4cm 5.6cm	21.9cm 6.0cm	25.3cm 5.2cm	15.0cm 7.9cm	16.2cm 5.1cm	21.5cm 5.4cm	15.5cm 5.6cm	
胸高直径 (cm)	確認された貴重種									

図 6.1.3-36 影響範囲50m内の植生断面模式図(北側—南側)(G) 平成30年度冬季

G 冬季調査



植生状況	マント群落 リョウホウガ群落	マント群落 イヌハゼ群落	ソデ群落 リョウホウガ群落	ソデ群落 リョウホウガ群落
樹高 (m)	6.8m~ 4.7m	11.1m~ 5.6m	6.3m~ 4.4m	6.0m~ 3.3m
胸高直径 (cm)	33.2cm~ 5.3cm	20.8cm~ 6.1cm	17.3cm~ 6.0cm	13.6cm~ 6.1cm
確認された 貴重種				

図 6.1.3-37 影響範囲50m内の植生断面模式図(東側ー西側)(G) 平成30年度冬季